

日本文学科 現2年生対象

令和5年度開講「演習」仮シラバス

【伝承文学演習】

※曜日・期限は予定ですので、変更になる可能性があります。

科目名	担当者	曜日	時限	ページ
伝承文学演習ⅡA・ⅡB	飯倉 義之	金	4	22
伝承文学演習ⅡA・ⅡB	八木橋 伸浩	水	2	22
伝承文学演習ⅡA・ⅡB	菊池 建策	火	5	23
伝承文学演習ⅢA・ⅢB	大石 泰夫	金	3	24
伝承文学演習ⅢA・ⅢB	松尾 恒一	木	2	25
伝承文学演習ⅢA・ⅢB	高久 舞	水	2	26
伝承文学演習ⅢA・ⅢB	鈴木 明子	金	6	26
伝承文学演習ⅣA・ⅣB	大楽 和正	火	6	27
伝承文学演習ⅣA・ⅣB	伊藤 慎吾	月	5	27
伝承文学演習ⅣA・ⅣB	服部 比呂美	金	3	28

【伝承文学演習 II A・II B】

【科目名】伝承文学演習 II A・II B	【曜日】金曜
	【時限】4限
【教員名】飯倉 義之	
【テーマ】現代の伝承・都市民俗を調査・研究する	
(演習内容)	
(講義内容)	
伝承文学や民俗学は、わたしたちとは関りの薄い、遠い過去の生活の中に存在するものと思われがちですが、しかし「民俗」や「伝承文学」は、いま・ここを生きるわたしたちの生活の中にも見出すことができるものです。	
この演習では、いま・ここにおける民俗・伝承文学を発見し、考察するための調査法・研究方法を論文講読と演習発表を通して学びます。	
卒業論文履修者（指導教員は問いません）の受講を優先します。	
(評価方法)	
授業時発表（40%）前期・後期1回以上。発表内容のほか、レジュメや発表の構成も評価します。	
レポート（40%）授業時の発表を元にしたレポートを提出してもらいます。	
受講姿勢（20%）コメントペーパーに、発表への感想・質問を記入してもらいます。	

【科目名】伝承文学演習 II A・II B	【曜日】水曜
	【時限】2限
【教員名】八木橋 伸浩	
【テーマ】現在学としての民俗学の実践的演習	
(演習内容)	
ことば・行為・感覚・形象によって超世代的に伝達・継承されてきた様々な民間伝承を素材に、日本の民俗文化の本質を把握し理解するため、受講生は各自の問題意識に沿って自らが設定した研究テーマについて資料収集・調査研究を行ない、その分析内容や結果について発表・討議を行う。	
単に事典類や概説書などによる概要説明では本演習の要件は満たさない。原則として前期は文献調査を中心とした発表を行ない、後期はフィールド調査を踏まえた分析を加味して研究を深化させていく。	
研究テーマは限定しないので、自身が関心を持つ素材をとおして民俗研究の方法を実践的に学びながら、現在学としての可能性に迫っていってほしい。	
卒業論文の作成と関わらせての受講も大いに歓迎する。	
※近年、受講生が研究テーマとした素材の例：人身御供、聖地巡礼、妖怪、鬼、オシラ様、狼、稻荷、博多祇園山笠、剣舞、イタコ、能、コトヨウカ、盆、ダルマ供養、語り部、時間、闇、異類婚姻譚、おわら風の盆、七夕、太鼓、神輿、山車、獅子舞、富士塚、橋、鳶、神酒口、握り飯、仙台四郎、シーサー……etc.	

(評価方法)

前期・後期の各発表内容（75%）、質疑応答など授業への参加度（15%）、出席点（10%）を総合的に判断し、平常点で評価を行なう。特に発表をめぐる討議へ積極的に参加しているか否かを重視する。

【科目名】伝承文学演習ⅡA・ⅡB	【曜日】火曜
	【時限】5限
【教員名】菊池 建策	
【テーマ】記録から読み取る生活	
(演習内容) 本演習では、普通の人々が書き記した日記等を通して人々の旅のあり方や暮らしぶり等を探ってゆきます。演習では地域に残された「伊勢参宮道中記」等をテキストとして使用し、人々が旅において何に注目したのか記述された内容から考え発表してもらうこととします。 授業では「伊勢参宮道中記」だけではなく、類似の道中記や日記類をあわせ見ながら考察を深めてゆきたいと思います。 この演習を通じて人々の旅のあり方や目的を考えるきっかけとなること、さらには記された内容について実地で確認し、記した人々の暮らしや行動について考える機会にしてもらえればと思います。	
(評価方法) 発表 70点 発表内容のほか、レジュメの構成、発表態度も評価する 授業参加の姿勢 30点 授業時間における質疑応答等授業参加の姿勢も評価対象とする 出席状況も考慮する	

【伝承文学演習III A・III B】

【科目名】伝承文学演習III A・III B	【曜日】金曜
	【時限】3限
【教員名】大石 泰夫	
【テーマ】祭りと民俗芸能についての研究方法を学ぶ	
(演習内容) (伝承文学演習III A) 「民俗芸能とは何か」さらに根源的に「芸能とは何か」ということから始めて、具体的に現在日本全国各地に伝承されている民俗芸能を取り上げ、その研究方法について受講者の発表・討議を交えて考えたい。 まず、芸能の発生、日本の芸能の歴史について具体的に論文を講読し、民俗芸能を見ながら考える。 芸能についての卒業論文作成を希望する者は履修することを推奨する。	
(伝承文学演習III B) 「民俗芸能とは何か」さらに根源的に「芸能とは何か」ということから始めて、具体的に現在日本全国各地に伝承されている民俗芸能を取り上げ、その研究方法について受講者の発表・討議を交えて考えたい。受講者がそれぞれ具体的に民俗芸能を選んで調べ、発表する形式をとって、受講者の調査が研究へと展開することを目指したい。 祭りと芸能についての卒業論文作成を希望する者は履修することを推奨する。	
(評価方法) 授業時発表 (40%) 発表内容・用意した資料・発表の態度が評価の対象。 レポート (40%) 授業時の発表を元にしたレポートを評価する。 受講姿勢 (20%) コメントペーパーへの記入 (授業の理解度・質問) も評価する。	

【科目名】伝承文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜
	【時限】2限
【教員名】松尾 恒一	
【テーマ】祭礼・芸能文化、年中行事、民間信仰・民俗宗教の調査と研究法	
(演習内容)	
わが国の祭礼・芸能文化、家や町村の年中行事、及び、これらと関連の深い民俗宗教、信仰を考究するための調査法を学ぶ。	
前者については、夏の祭礼の典型ともなった京都祇園祭、御靈信仰を出発点として、各地の都市祭礼を扱い、祭りと風流、熱狂、暴力といった側面について考える。あわせて、念仏踊り・風流踊りから、かぶき踊り・盆踊りへの分化と諸地域の民俗事例について考察する。	
後者については、イタコ・山伏・民間陰陽師、琉球地域の女性宗教者（ノロやユタ）等、民間の宗教・芸能と、その担い手となった人々の生活や社会的な側面について考える。芸能や祭儀・呪術の習得のための修行や、差別・被差別や、漂泊といった側面について注目してゆくことになる。関連の民俗として、民間に伝承される冬から春の間の諸地域の神楽についても注目するが、古代における鎮魂呪術としての神楽をも考慮しつつ、地域によっては、病人祈祷や、狩猟における動物靈の鎮魂等の祭儀へと神楽が展開していったこと、その伝承を考えてゆきたい。	
前期は、主として先行研究について、論述の根拠となる資料や、調査の特質について考えてゆく。	
後期は、実際のフィールド調査に基づいての、現在の伝承の実態と特質を考察する。	
伝承を考える上で、	
<ul style="list-style-type: none"> ・人（伝承者や伝承組織、生業や生活） ・時間（行事や祭儀の内容、準備から終了までの進行） ・空間（祭儀の空間・地域、自然環境） 	
を文字や図解・画像・映像を用いて記録し、明らかにすることが基本となるが、そのほか、祭礼・芸能に特有な、音楽や身体所作、仮面・装束、楽器等のモノ資料からの分析を学ぶ。さらに、その歴史的变化、変容を解明し、理解するための文献・絵画資料を読み解くことも目標とする。	
(評価方法)	
口頭発表 70%(事前指導 20%+当日発表 40%)、またはフィールドワークレポート 70% +平常点(出席・授業時課題等)30% + α (自主フィールドワークレポート等)により評価する。発表のためには、早め（最低でも 3 週間以上前から）の準備が望ましい。	
特に、後期の発表者は、夏季休暇中以降のフィールドワークに基づく報告と発表となる。自主的なフィールドワークレポートにも期待し、評価に加える。	
なお、コロナウィルス等のため on-line による授業となった場合には、on-line と教室での授業等の内容と、割合を勘案して評価の方法を決定する。	

【科目名】伝承文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】水曜
	【時限】2限
【教員名】高久 舞	
【テーマ】民俗芸能研究の方法の修得と民俗芸能の現代的課題を考える	
(演習内容)	
<p>本演習では民俗芸能研究の方法を学び、その学びを通して民俗芸能の現代的課題について考える。</p> <p>受講生は具体的な民俗芸能を一つ選び、1年を通してその民俗芸能を調査研究する。対象とする民俗芸能は、現在伝承されているものを原則とする。</p> <p>前期では、対象とする民俗芸能の何を問題として、何を明らかにしたいのかを考えるために、先行論文を購読し発表を行う。</p> <p>後期では、対象とする民俗芸能に沿った研究方法（他地域との比較、歴史的変遷など）を見つけ、発表する。なお、後期にはこれまで研究してきたことを踏まえ、現在の民俗芸能の課題についてグループディスカッションを行う。</p> <p>発表・討議を通して、現在の民俗芸能について多角的なアプローチから考えていきたい。</p>	
(評価方法)	
<p>前期：発表内容および発表を元にしたレポート（レジュメ作成、学期末レポート）60%</p> <p>授業への取り組み（質疑応答、討議への参加姿勢）40%</p> <p>後期：発表内容（問題設定、発表の構成、発表態度など）40%</p> <p>授業への取り組み（質疑応答、討議への参加姿勢）20%</p> <p>グループディスカッションへの取り組み（議論の姿勢）20%</p> <p>グループ発表（発表の構成、発表態度など）20%</p>	

【科目名】伝承文学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】金曜
	【時限】6限
【教員名】鈴木 明子	
【テーマ】絵図資料による芸能と伝承	
(演習内容)	
<p>近世の絵図資料には、多くの芸能が描かれている。描かれた芸能の中には、現代の民俗芸能や行事にその痕跡をとどめるものもある。</p> <p>前期は、絵図に描かれている芸能を一つ選択し、資料を集めて、芸能の特徴について考察し、発表してもらう。後期は、前期で発表した絵図に見られる芸能が、民俗芸能や行事などの中に痕跡をとどめている事例を渉猟し、発表してもらう。今年度も引き続き基礎的な絵図資料として『人倫訓蒙図彙』巻七「勸進饗部」を用いる予定である。</p>	
(評価方法)	
<p>理由なく三分の一以上欠席した場合は単位を認めない。</p> <p>前・後期ともに、最低各一回ずつの発表内容とディスカッションに取り組む姿勢で評価する。</p> <p>後期は、前期の発表内容をあわせて作成したレポートも踏まえての評価となる。</p>	

【伝承文学演習IVA・IVB】

【科目名】伝承文学演習IVA・IVB	【曜日】火曜
	【時限】6限
【教員名】大楽 和正	
【テーマ】民俗研究の方法—比較研究法を修得する—	
(演習内容) 庶民生活の歴史的展開を明らかにするうえで、それらを記録した文献資料は欠かせない。本演習では、近世・近現代の文献記録を素材にして、民俗の比較研究の方法を修得することを目的とする。 前期は『日本庶民生活資料集成』に収録された「諸国風俗問状答」や「菅江真澄遊覧記」などを一次資料として、各自の関心にもとづいたテーマを設定し、研究発表と討議を行う。 後期は同様に「日本民俗地図」や「市町村史」などを使って比較研究を深める。民俗研究の基本的な作業を経験することで、卒業論文作成の方法を学ぶことにもなる。	
(評価方法) 平常点。発表内容・発表資料(80%)、積極的な質疑応答等の授業参加度(20%)を評価基準とし総合的に判断する。	

【科目名】伝承文学演習IVA・IVB	【曜日】月曜
	【時限】5限
【教員名】伊藤 慎吾	
【テーマ】伝説・怪異伝承と地域社会	
(演習内容) 伝説は、特定の地域の歴史や社会、信仰などと密接に関わりながら伝承してきた。妖怪を中心とする怪異の伝承も、河童淵や天狗の棲む山など、特定の場所を対象として語られることが多い。 ところが今日はそうした伝承の社会的意義が変化していき、たとえば観光との関わりから地域振興のコンテンツとしての価値が付加されるケースも少なくない状況にある。 当演習では、各自が特定の地域に伝承してきた伝説や怪異について、調査・考察して口頭報告を行ってもらう。	
(評価方法) リポート30% 平常点 70% (プレゼンテーションと質疑応答)	

【科目名】伝承文学演習IVA・IVB	【曜日】金曜
	【時限】3限
【教員名】服部 比呂美	
【テーマ】民俗の比較研究法を学ぶ	
伝承資料を収集し、実態（事実）把握、自らの視点からの分析、考察という比較研究の方法を習得することを目的としている。	
卒業論文を執筆する学生にとっては、具体的に分析方法を学ぶ機会である。	
(演習内容)	
<ul style="list-style-type: none"> ・前期は、文化年間の「諸国風俗問状答」を資料として用いる。年中行事や儀礼など、受講者が課題を決め、「諸国風俗問状答」から該当箇所を抽出し、比較研究を行って、この結果を発表する。たとえば正月の門松が課題であれば、秋田から熊本までの約20地域の門松のあり方を確認し、用いられる樹木や供え物の違いなどを発表する。 ・後期は、受講生が関心のあるテーマについて「市町村史」や「日本民俗地図」の資料集などから伝承資料を収集し、オリジナルデータデータを作成する。ここから比較研究を行い、自ら新たな発見をするという喜びを知ってほしい。 ・卒業論文を履修している学生は、後期の演習内での発表も可能である。 	
(評価方法)	
平常点。発表資料、発表内容で評価する。	